

宇部市民オーケストラ

クラシックのタベ


～気軽にオーケストラ～

指揮 十川真弓

ナレーション 白松敦子

1999年9月5日(日) 18:00 渡辺翁記念会館

- ☆シベリウス；フィンランディア
- ☆J. S. バッハ；管弦楽組曲第3番より
アリア、ガボット1・2
- ☆レオポルト・モーツァルト；おもちゃの交響曲
- ☆ビゼー；組曲カルメンより
闘牛士（第1幕への導入）
第1幕への前奏曲
子供たちの合唱
ハバネラ
セギディリア
アルカラの龍騎兵（第2幕への前奏曲）
アラゴネーズ（第4幕への前奏曲）
ジプシーの踊り

主催 宇部市民オーケストラ <http://member.nifty.ne.jp/~tsuki/>
後援 宇部市、宇部市教育委員会、(財)渡辺翁記念文化協会、宇部音楽鑑賞会、宇部好楽協会
朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、中国新聞社、ウベニ子新聞社、宇部時報社
エフエム山口、**V!!** 山口朝日放送  **KRY** 山口放送

 山口放送局

シベリウス・交響詩「フィンランディア」

フィンランドを代表する作曲家として知られるヤン・シベリウス（1865-1957）は、今世紀の最も重要なシンフォニストの1人であり、その創作の中心は、オーケストラ作品でした。彼は、その生涯に全部で7曲の交響曲の他、北欧の神秘と抒情に溢れる数多くの交響詩を残していますが、それらは、彼に絶大な人気と名声を付与する結果をもたらしているのです。

シベリウスが活躍し始めた時期とシンクロするようにフィンランドでは民族意識が高まり、帝政ロシアからの独立の機運が高まりつつありました。その彼を愛国心の象徴のようにさせた最初の作品が「フィンランディア」でした。

1898年、ロシアによるフィンランドの出版検閲が強化され、これに対してヘルシンキの新聞関係者は1899年に検閲反対の集会を行い、その最後に「フィンランドの目覚め」と題する劇を上演しましたが、その劇の音楽をシベリウスが担当しました。

このときの劇音楽から「歴史的情景第1」と名付けられた3曲の組曲と、フィナーレの音詩がコンサート用に編出されました。この「フィナーレ」が「フィンランディア」として演奏されるようになりました。しかしこの曲が支配国のロシアを刺激したため、曲のタイトルを変えて演奏しなければならなかったこともあったそうです。

曲は金管によって唐突にほとんど怒りに満ちた主題で始まります。弦楽による抒情的な展開を経て、情熱的な力強い序奏部から金管の活躍する雄渾な行進曲（主部）へ盛り上がるが、やがて木管が哀愁を帯びた頌歌（中間部）をうたいます。これはのちにフィンランド国歌よりも有名になった旋律です。のちに歌詞が与えられて「讃歌」と呼ばれ、また賛美歌にももちいられるようになりました。この楽想が展開されてから、勝利を祈願するような雄弁な終結部で結ばれます。

（大村康一郎）

バッハ・管弦楽組曲第3番より アリア、ガボット I・II

1 アリア

アリアとは、特定の舞曲形式によらない舞曲風の小品や旋律的小曲を指すのに良く使われた呼び名です。別名「G線上のアリア」として今日広く愛されているこの曲の主役は第一ヴァイオリンがつとめです。通奏低音が淡々と進行していく中で甘い旋律にまわりついていく様子は、きらきらと輝く絹の糸を思わせませう。内声を受け持つ第二ヴァイオリンとヴィオラが全体にほどよいふくらみを与えています。

2 ガボット I・II

全楽器の総奏で始まる第一ガボットは落ち着いたテンポで進んでいきます。その中でも跳躍が多用されているので軽やかに舞い立つような風情を醸し出しています。やや繊細な面持ちを持つ第二ガボットでは、空へ向かって放たれるようなトリルが第一トランペットによって奏でられとても印象的です。

（栗林 宏明）

レオポルト・モーツァルト・おもちゃの交響曲

モーツァルト、とは言っても、かの有名なWAモーツァルトのスパルタ父ちゃん、レオポルト・モーツァルトが作ったのですが、何故かこの曲は長い間ヨゼフ・ハイドン（ビックリ交響曲などで有名）の作とされてきました。管楽器と打楽器の部分をおもちゃ楽器に差し替えてしまう愉快なアイデアがそうさせたのかな？原曲のカツナーシオ（当時のBGM音楽の一つ）のうち3曲を抜粋してアレンジしています。弦楽器も何故かピオラがない編成ですが、おもちゃとのカラフルなアンサンブルにしばし耳を傾けて下さいませ。3つの楽章は、アレグロ、メヌエット、アレグロです。

（濱野 妙子&大槻 司）

宇部オケこぼれ話：

宇部オケには演奏会前の練習に儀式があります。「指揮者騙し」指揮者がいつも通りタクトを振っても、全然違う曲を突発するという悪戯です。しかし、ここで「笑い」が取れるネタでないという意味はありません！前回の定演の時、いきなり指揮者騙しを食らった十川先生は、しばし呆然と…しかし、ちゃんと十川先生も楽員に仕返しを！

さて、今日もどんな指揮者騙しがあったことでしょうか？当てた方にはビール1ダースを…（うそ）

ビゼー・組曲「カルメン」より

舞台は19世紀の初め、スペイン南部の町セヴィリア。たばこ工場の前で、騎兵隊の伍長ドン・ホセとジプシー女カルメンは、運命的に出会います。ホセはカルメンの誘惑に負けて恋をしてしまいますが、それは、彼を不幸に陥れる呪われた恋だったのです。カルメンはすぐに闘牛士エスカミーリヨに心変わりしてしまいます。許婚ミカエラを捨て、密輸団の一味となってまでカルメンへの恋に尽くしたホセは、逆上してついにカルメンの胸を刺してしまうのです。

オペラ「カルメン」は、フランスの作家プロスペール・メリメの小説をもとに1874年に作曲された、ビゼー35歳の時の作品です。しかし翌年、このオペラが初演されてからわずか3ヶ月後にビゼーは亡くなります。残念ながら、「カルメン」の評判は芳しくなく、ビゼーはショックと持病の悪化が重なり、命を落としてしまったらしいのです。

それから数年のうちに「カルメン」は、ヨーロッパ各地やアメリカで上演されるようになり、高い評価を得るようになりました。日本でも1919年に、初演されています。

「カルメン」組曲は、オペラ全4幕の中から名曲を選んで管弦楽用に編曲されたものです。本日の演奏では、さらにオペラの進行に従って順番を組み替えています。

1. 闘牛士

この前奏曲は、多くの人々に親しまれている名曲の一つです。まず、威勢のよい闘牛士の行進の音楽で始まります。中間部では、第2幕でエスカミーリヨが歌う「闘牛士の歌」が現れます。さあ、オペラの幕明けです。

2. 第1幕への前奏曲

弦楽器のトレモロに続いて、チェロと管楽器の低音が不安を掻き立てるような旋律を奏し、悲劇の始まりを告げます。

3. 子供たちの合唱

衛兵の交代のとき、衛兵の列についてきた子供たちの合唱です。まず、トランペットが衛兵の交代を告げ、続いて2本のピッコロがユーモラスな行進曲を始めます。

4. ハバナラ

ハバナラは、スペインが植民地にしていたカリブ海の島国、キューバで生まれ、のちにスペインに再伝来して広まりました。名前はキューバの首都ハバナに由来しています。カルメンは、たばこ工場の前で生真面目に勤務しているホセを誘惑しようと「ハバナラ」をなまめかしく歌い、赤い花を投げつけて去ります。

5. セギディリャ

セギディリャは、ギターとカステネットの伴奏で歌いながら踊られる、スペイン南部の舞曲です。フルートのスペイン情緒たっぷりの前奏のあと、弦楽器のピチカートを伴奏に、オーボエが3拍子の舞曲を演奏します。

6. アルカラの龍騎兵

第2幕への前奏曲。ファゴットがおどけたように民謡風な旋律を奏します。弦楽器と木管楽器の掛け合いのあと、今度はクラリネットがファゴットと同じ旋律を繰り返します。

7. アラゴネース

第4幕への前奏曲。冒頭にオーケストラがリズミカルに力強く響かせたりします。それがだんだん小さくなっていくと、アラゴン地方の舞曲をもとにした旋律がオーボエに現れます。いかにモスペイン的な情熱にあふれた曲です。

8. ジプシーの踊り

セビリアの町はすれ、リリヤス・パステアの酒場の場面。カルメンたちジプシー仲間が3人で歌い踊ります。始めはゆるめのテンポでフルートが軽やかにステップを踏みます。次第にテンポが速くなり、音楽は興奮しつつ盛り上がっていきます。

この曲は、第2幕で演奏されますが、組曲では終曲となっています。

(磯谷 妙子)

第二回定期演奏会予告 2000年3月5日(日)

ベートーヴェン・交響曲7番イ長調 ほか

宇部市民オーケストラ

団長 佐藤育男

副団長 池田芳江、大槻 司、末永俊彦

インスペクター 澤 明彦、池田修三

ステージマネージャー 大村康一郎

楽器 藤野 隆、高杉美佳子

楽譜 大石正興、福田敦宏

会計 末永俊彦、加藤由香里、濱村典子

厚生 金尾誓悦、小賀真理子

記録 河津隆雄 松永佑一

広報 上野 尚、大槻 司

事務局 八木佳世

- Vn ◎安永 恵 ◎笹本真理子 ◎在田和子 ○清水治子 安楽由利子 池田英子 池田芳江
池田修三 上野 尚 内田久士 内海俊彦 大田美希 喜多展子 黒田志郎 近藤 哲 千葉 稲
中村健司 永本晴美 長谷川太郎 林 寿海 山下陽子 山本顕子
- Va ○濱野妙子 石毛智子 大石正興 大槻直美 須郷 恵 萩 隆男 山田容子
- Vc ○栗林宏明 大槻 司 奥田 隆 加藤由香里 澤 明彦 下瀬智久 高石道明 中谷仁美 濱村和幸
藤野 緑
- Cb ○藤野 隆 河津隆雄 国光日出生 弘中章司 横山達也
- Fl ○竹本直子 井伊秀子 小賀真理子 鈴木まさ子 高井寿永 藤井則子
- Ob ◎肥塚史幸 藤田敦子
- Cl ○磯谷妙子 大村真奈美 高山尚子
- Fg ○金尾誓悦 福田敦宏 宮下英晃
- Ip ○種田裕彦 藤井晶宏 三戸由香里
- Hr ○河津弥恵 柴崎陽治 徳永 輝 濱村典子 松永佑一 柳井秀雄
- Tb ○大村康一郎 青木清敬 佐々木政明 森下麻衣子 山本 忍
- Tuba ♥砂川英之
- Perc ○高杉美佳子 山元紀世子 ♥岡村洋輔 ♥柏村恵子 ♥横山真志保
- Harp ♥川口三値子
- ◎はコンサートミストレスと管セクションリーダー、○はパートリーダー、♥は客演

指揮：十川 真弓

昭和32年 東京芸術大学器楽科卒業 兎束龍夫氏、渡邊暁雄氏に師事

昭和32年 東京フィルハーモニー交響楽団団員

昭和35年 日本フィルハーモニー交響楽団団員

昭和50年 山口大学助教授 昭和61年より教授

平成10年 山口大学名誉教授、現在に至る

全日本学生音楽コンクール(Vn)審査員

後援会 (旧・発起人会)

会長：加藤 紘(山口大学医学部長)

事務局長：名和田洋二(新光産業(株)取締役社長) TEL:0836-45-1111

編集後記

今回は手作りの演奏会を目指すということで、チケットもプログラム冊子も全て手作り、記載も必要最小限にしました。いかがだったでしょうか？定期演奏会とは一味違った宇部市民オケを味わっていただけましたら幸いです。

(編集：大槻 司)